

●北風に波立つ水面を優雅に泳ぐ水鳥たち

新年を迎え、いよいよ寒さも厳しく、公園の水辺も凍てつく寒さとなりました。そんな中で、活発なのは水辺の鳥たち。今月はスペースの都合で12月号に掲載できなかった公園の水鳥たちをご紹介します。

●クワツ！クワツ！皆さんおなじみ「カモ科」の鳥たち



カルガモ

■愛くるしい姿でおなじみのカモ。一口にカモといってもたくさん種類があります。一番ポピュラーなのはくちばしの先が黄色いカルガモ。留鳥なので一年中見かけます。他のカモと違い、オスメス同色です。ホツケ田の稲を食べてしまう、ちょっと悪い子です（笑）緑の顔が特徴のマガモは昔から食用として馴染みの深い種類です。コガモの個性的な模様はまるでメキシコのプロレスラーのようですね。ヒドリガモやオナガガモもオスの模様の特徴がありますが、先の2種よりも控え目でお上品。ちなみにカルガモ以外は冬鳥なので越冬しに飛来しています。



マガモ



コガモ



ヒドリガモ



オナガガモ

●大きくダイナミック「サギ科」の鳥たち



アオサギ



ダイサギ



コサギ

■公園で一番見かけるのはアオサギで、黄色のくちばしに灰色がかかった模様が特徴。大きいもので全長 98cm、翼開長 170cm にもなる日本最大級のサギです。一般的にシラサギと呼ばれているものにも種類があり、大きさと大中小が頭に付きます。また夏羽と冬羽での変化も面白く、ダイサギは冬にくちばしが黒から黄色に変わり、コサギはクチバシの色は変わらずに夏に冠毛が生えます。公園では見かけないチュウサギは、黒いくちばしが冬には先端を残して黄色に変わるという、大きさと同様に色の変化も両種の間で面白いですね。いずれも留鳥で、カルガモと一緒にいることもあります。



★もぐつちよの入江
■公園の南西に位置する「もぐつちよの入江」。ちょっと変わった名前ですが、もぐつちよとは「カイツブリ」のこと。もぐつちよは、昔からそう呼ばれて親しまれていたようです。

●水の鶏と書いて「クイナ科」の鳥たち

■カモと並んでよく見かけるオオバン。公園には本州北部のものが秋頃になるとやってきます。オオバンよりも一回り小さいバンは、大きな声で鳴くことから、「田んぼの番人」ということでその名がついたといわれます。いずれも泳ぐ時に首を前後に振るのが特徴です。ちなみに公園内には、復元した御所沼に水鶏の再来を願って付けられた「水鶏坂」があります。



オオバン



バン



カワウ

水鳥の中でも魚捕りが上手なイメージのあるカワウ。公園でも見かけますが、近年では個体数の増加で環境破壊や漁業被害を起こすとして問題になっています。

●1年で最も寒いこの時期、春が待ち遠しいですね。てくてく情報、次号もお楽しみに！

●この時期だからこそ、発見がたくさん。

暦の上では春を迎える2月。公園内の樹木、植物は寂しい季節ですが、来る春に向けしっかりと準備中です。この時期だからこそ、見られるものがあります。てくてく観察してみてください。

○ 個性色々、樹木の冬芽を見てみましょう

■冬芽にも種類があり、枝から直接葉が出てくる「裸芽」と、芽鱗という殻のようなものに覆われた「鱗芽」があります。



①トチノキ

・トチノキ科の冬芽（鱗芽）は、樹液で覆われて乾燥を防いでいます。駐車場②にあるアカバナトチノキの方が背丈が低いので観察はしやすいですが、遊具広場①にあるトチノキの方が、樹液が多く出ています。



③コブシ

・管理棟北側や桃林と中山台の間など、園内に点在するコブシ。この鱗芽の特徴は毛皮の芽鱗に覆われていること。ふわふわであたたかそうです。同じふわふわでコブシに似た冬芽のナツツバキ。このふわふわは茶色の芽鱗が落ちて裸芽状態になったものなんです。毛皮のコートを着ているコブシ、脱いたら毛深いナツツバキといった感じでしょうか（笑）



⑤イロハモミジ

・雪華園他、秋の公園を彩ったイロハモミジ。冬芽は左右で2つ対に、一定の間隔を開けて縦横角度を変えて規則的に付いているのが面白いですね。

・アカシデはたくさんの冬芽をつけ、芽鱗の数が多いのが特徴です。大きいのが雄花芽で、小さめで先が尖ったものは葉芽もしくは葉と雌花の混芽なんです。



⑥アカシデ

○ ちょっと変わった樹木の花

・街路樹としてもおなじみのメタセコイア。この丸いのはつぼみで、ここからつぼつぼした花序（花の集まり）が顔を出します。雌雄同株で先端の方で出る細長い物が雌花序です。富士見塚の西側⑦などにありますので、ぜひ開花の過程を確認してみてください。



⑦メタセコイア



⑧ハンノキ

・ハンノキがぶら下げている謎の物体も雄花序です。花序の中でも尻尾のように垂れ下がるものを尾状花序と呼びます。雌花序は小さく垂れ下がらないのでわかりにくいですが、探してみましょう。公園南側の瀬橋付近⑥に多くあります。



花桃(矢口)

紅梅

○ 開花が待ち遠しいつぼみ (梅・花桃・桜)

■3/20からの桃まつりを控え、花桃のつぼみも準備中。また今年は民家園南側に18本の梅が植樹され約5年ぶりに梅林が復活しました。3月には開花予定です。



④ナツツバキ

○ この時期にキレイな花

・「やっぱり花が見たい」という方は民家園へ。東側から入って右奥には葉のない枝に黄色の花をつけるロウバイ。



ロウバイ



乙女椿

・「やっぱり花が見たい」という方は民家園へ。東側から入って右奥には葉のない枝に黄色の花をつけるロウバイ。蟬梅と書くので梅の仲間（バラ目バラ科）と思われるがちですが、クスノキ目ロウバイ科で遠い種類なんです。茶畑側にはかわいい乙女椿がこれからどんどん咲きます。民家園の他にマップの★の場所にも少しありますよ。

●公方様の森で発見(ヤママユの繭)

ヤママユは日本在来の蛾の一種です。この繭一つで約600mの絹糸が採れるそうですが、現在市場に出回っているものは全て人工飼育されたもので、野生のものではないそうです。



ヤママユの繭

ちなみにこのヤママユは、成虫になると口が退化し、一切餌を摂らず、幼虫時に蓄えた栄養だけで生きるんだそうですよ。

●花はなくても見るものはたくさん。調べてみると楽しいですよ。てくてく情報、次号もお楽しみに！

●花桃、桜など、春の花をご紹介

春を迎え、公園は一年で一番華やかな時期を迎えます。花桃、桜を中心に、春の花スポットをご紹介します。

①公園の代名詞、約1500本の「花桃」

全体の約8割を占める「矢口」が3月下旬、同時期に「寒白」、4月上旬に「源平」「寿星桃」、4月上旬から下旬にかけて「菊桃」の順に見頃を迎えます。桜と違って花弁は散らずに色褪せていくので、比較的長く楽しめます。現在植えられている花桃は食用ではなく、花を觀賞するために品種改良された花桃です。

矢口



花つき、花もちが良い。

寒白



花が白色、八重咲の大輪。



源平

立ち状とホーキ状の樹形がある。

寿星桃



樹高1~2mと低い。

菊桃



花びらが菊の様に細い。



フジ

(4月下旬~5月上旬頃)
中山台、蓮池周辺、雪華園
公方様の森など。

②春といえば、やっぱり「桜」

管理棟前や芝生広場西側に「ソメイヨシノ」、公園南エリアには数は多くありませんが、早咲きのカンヒザクラやヒガンザクラ、花と葉が同時に開くヤマザクラなども見られます。公方様の森には、いわゆる桜とは見た目が全く違うウワミズザクラやイヌザクラなどそれぞれの違いもお楽しみください。



ソメイヨシノ



シダレザクラ



カンヒザクラ
(3月中旬)



ヒガンザクラ
(3月下旬)



ヤマザクラ
(4月上旬)



ヤエザクラ
(4月中旬)



ウワミズザクラ
(4月下旬)



③きれいになった「ジェラテリア」

桃まつり前まで、改装のためお休みしていたジェラテリアが、きれいになってオープンしました。これからの季節、外に出る機会が増えるシーズンです。古河公方公園で新緑の公方様の森をみながら、カフェテラスで優雅にお茶でもお楽しみください。



●いよいよ暖かくなり、公園は徐々に新緑に染まっていきます。てくてく情報、次号もお楽しみに！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●木々の芽吹く新緑の季節を感じに・・・。

①今年も田んぼの始まりです。『わくわく・ドキドキ』



どろんこクラブで植える苗を育てています。秋にはたくさんの穂をつけてくれることでしょう。ホッツケ田で四季折々の農の風景をお楽しみください。



②浄円坊池で涼やかに咲くスイレンの花

浄円坊池には今が見頃のスイレンが咲いています。ハスとスイレンは同じ水生植物で似ていますが、ハスの葉が水上に立っているのに対してスイレンは浮かんでいます。また葉の形をよくみるとハスは真ん丸ですが、スイレンの葉には切れ込みがあります。これからの季節には、スイレンの清楚で涼やかな花はぴったりです。



浄円坊池のスイレンの花を見に来ませんか。5月から7月いっぱい頃まで見ることができます。ハスとの違いを見てください。

③トチノキ『フランス語名：マロニエ』

落葉性の高木で、葉が非常に大きく、長い葉の先に小さな葉が分かれて広がっています。『掌状複葉』と言い、これで一枚の葉です。

5月から6月に、葉の間から穂状の花が現れます。穂は高く立ち上がり、個々の花と花びらはさほど大きくないですが、雄しべが伸び、全体としてはにぎやかで目立つ姿です。児童文学『モチモチの木』に登場する木『トチノキ』です。街路樹や公園樹などとして広く普及しています。



④ベニバナトチノキ『トチノキと比べてみよう』

マロニエと米国産のアカバナトチノキを交配したベニバナトチノキです。湿気のある土地を好みます。公園の駐車場で見ることができます。トチノキと比べてみてください。



初秋には実がみのります。種子は大きさ、艶、形ともに栗に似ています。この種子が栃の実です。



●木々が芽吹き、若葉のつややかな新緑の季節、公園を楽しんでください。てくてく情報、次号もお楽しみに！

●蒸し暑い日が多くなりましたが・・・

①6月に入り例年より一週間ほど早く、オオガハスが咲き始めました！！



古河公方公園を代表するピンク色がトレードマークの夏の花『大賀ハス』が咲き始めました。3000㎡の蓮池いっぱい咲く姿をこれから見るができます。お楽しみに！！

②大賀蓮池や管理棟付近で華麗に咲くヘメロカリス

大賀蓮池や管理棟近くの自転車小屋の前には、黄色がとても目を引く『ヘメロカリス』（キスゲの仲間）が咲いています。開花時期は初夏から夏（6月～7月頃）にかけて次々と花を咲かせてくれる多年草です。1本の花茎にたくさんの花を咲かせ、何本も立ち上がるので長期間花を楽しむことができます。太陽に向かって花が伸びる姿は凛として素敵ですよ！！



ヘメロカリス

③夏の風物詩アジサイが咲き始めました。

桃林や牧の地口付近に植えられているアジサイが咲き始めました。6月～7月頃まで鑑賞できます。花言葉の「家族の結びつき」のように、これからの梅雨時期は家族で語り合いながらの公園散策もいい思い出になりますよ。また、この機会に種類によって花やガクの違いがあるのを観察してみたいでしょうか。



紫陽花(アジサイ)

④夏に咲く白い花『ナツツバキ』です。

大きく分けて3種類ある椿（椿・寒椿・夏椿）の中で、この時期に咲くナツツバキ。散り方、木の高さなどそれぞれ特徴があって面白い物です。



ナツツバキ

●じめじめした梅雨の季節も、公園で楽しんでください。てくてく情報、次号もお楽しみに！



④アジサイの違いを比べて見よう！

「ガクアジサイ」は、中心の蕾のようなものが花びらで、取り囲む花びらに見える部分は装飾花と呼ばれ、『がく』（葉っぱが変化し花を守る部分）なんです。（下の写真）『がく』が「額縁」の様に周りを縁取っている様子から「額紫陽花」と名付けられた様です。



額紫陽花(ガクアジサイ)

●暑い日が多くなりましたが・・・

①天神橋の床板が老朽化による改修のため、通行禁止になっています。通行しないようお願い致します。



天神橋の床板が老朽化のため、通行禁止になっております。修繕を予定しておりますが、まだ少しお時間を要します。ご迷惑をお掛け致しますが、散歩の際は別のルートをお通り下さいますようお願い致します。



②今月中が見頃、最盛期を迎える大輪の大賀ハス

今までにない早い梅雨明けが発表され、急に暑い夏がやってきました。6月中の梅雨明けは観測史上初だそうです。各地で甚大な被害等に見舞われておりますが、これ以上の被害拡大がないことを祈るばかりです。今年の大賀ハスの開花は6月1日と例年より早く確認されました。暑い中でも、公園に涼やかさを届けてくれ、今、見頃を迎えています。7月いっぱいみなさんの目を楽しませてくれるはず。ハスを鑑賞するには、は、まだ気温が高くなる前の早朝が一番です。是非、少し早起きをして、公園の夏の花を見に来て下さい。きっと植物のエネルギーを感じ、そこから元気なパワーがもらえるはず。



③サルスベリ『別名:百日紅(ヒャクジツコウ)』の花

ベニバナトチノキとバトタッチ！管理棟近くの駐車場にサルスベリが咲き始めました。初夏から秋までの長い間、美しい花姿でみなさんの目を楽しませてくれます。



サルスベリは樹皮がなめらかな手触りをしていることが特徴で、猿も滑ってしまうほどのツルツルとした幹の様子からサルスベリと名付けられたそうです。

④この時期の花、ミソハギです。

お盆の頃の仏様のお供えの花としてよく使われており、昔は田の畔や水辺などに自生していた花です。最近はあまり見られません。

ラベンダーに見た目が似た、ミソハギです。蓮池付近で見ることが出来ます。



●暑い夏の季節も、公園で涼しく楽しんでください。てくてく情報、次号もお楽しみに！

●公園の夏、涼しさを求めて・・・

①天神橋の床板の貼り換え修繕を終え、通行出来るようになりました。



老朽化した床板の貼り換え修繕のため、しばらくの間、通行止めになっていました天神橋ですが、8月10日に修繕を終え通行出来るようになりました。大変ご迷惑、ご不便をお掛け致しました。

②なつかしい田んぼの景色『ホツケ田』

公園の南、ホツケ田では、どろんこクラブのみなで5月に植えた小さかった稲がすすくと育ち、今ではこんなに大きく成長し、稲穂が出てきました。

今年は異常なほど気温が高く、雨の少ない天気が続いていますが、みんなの期待を一身に背負って稲も頑張っています。

9月には黄金色に輝く稲穂の収穫が楽しみです。

これからも元気に育てたくさんの稲穂をつけますように！

※この写真は何の花かわかりますか？正解は、稲の花なんですよ。



田植え



ホツケ田(現在)



稲穂



稲の花



③夏から秋へ少しずつ移り変わりを知らせてくれる

●水色のポンプモニュメントを右側にみながら相ノ谷橋を渡ると、その先には、両側ススキのアーチが広がります。ススキがもう少しで秋が訪れるのを教えてくれています。



●栗の実もなっています。御所沼周辺では夏から秋への模様替えの真っ最中と言ったところでしょうか。

④この白い花は何の花？

この白く可愛い花は、7月～9月にかけて日没後から開花するウリ科の多年草『カラスウリ』です。夜間だけ開く花として知られていません。このような目立つ花になったのは、受粉のために、夜行性の『蛾』を引き寄せるためだと考えられているんです。

葉っぱは、意外にキュートなハート型をしていますよ❤️



●夏の季節も、公園で涼しく楽しんでください。てくてく情報、次号もお楽しみに！

●秋がだんだん近くに感じられるようになって来ました。

①秋は空も雲も楽しみのひとつ。雲を眺めてみてはいかがですか・・・



暑かった夏もようやく過ぎ、秋は過ごしやすい心地の良い季節ですね。上を見上げると空は澄み渡り、爽やかな気持ちにさせてくれます。透明度が高い『秋の空』気象学上『十種雲形』と呼ばれる雲の形や高さによって10パターンにも分類され、それぞれ名前がついているそうですよ。



②中山台に出現したこの植物たちの正体はいったい？

まず最初は、1. もこもこした可愛い形をした小さな木、箒のような細かい茎が特徴の秋に赤く紅葉するヒユ科バツシア属の一年草の『ホウキギ』(コキア)です。夏は緑、秋は赤と色を変え私たちの目を楽しませてくれます。続いては、2. 秋の彼岸ごろから開花すること由来するヒガンバナ科ヒガンバナ属の多年草『ヒガンバナ』です。艶やかな花姿や色のよう、花言葉は「情熱」です。ああーと納得してしまいます。最後は、3. イネ科シロガネ属の多年草の『シロガネヨシ』(パンパスグラス)です。ススキとよく似ていますが、草丈や穂の大きさは全然違います。園内のススキとの違いを比べて見ては！！



③秋の絶好の場所『民家園』も秋の支度を始めました。

暑く雨の少なかった夏が過ぎると、民家園も秋の準備に入りました。夏から咲いていたサルスベリやキバナコスモスも、まだ咲いていますが、垣根は変化を始めています。夏は青々としていた生垣ドウダンツツジは、秋仕様に色を変えながら紅葉の準備です。紅葉が始まると民家園付近は美しい景色を見せてくれます。



④春の七草と秋の七草との違いは？

春の七草は、1月7日に無病息災や五穀豊穰を願う七草粥を食べるのに対し、秋の七草は、草花を食べるのではなく目で楽しむものです。秋の七草は、『ハギ』『ススキ』『キキョウ』『ナデシコ』『オミナエシ』『フジバカマ』『クズ』の7種類です。今年の9月24日(月)の十五夜は、ススキと一緒にキレイな秋の月が見られるといいですね！！23日24日はススキを無料配布します。



●季節は夏から秋に移り変わっていきます。てくてく情報、次号もお楽しみに！

●秋がだんだん近くに感じられるようになって来ました。

①園内各所にある地名碑、表には地名、裏には由来が数多くあります。変わった物もありますよ。



園内には30基ほどの地名碑が立てられています。表面には地名、裏面にはその由来を刻んだこの石の碑は、その場所のかつての字名、故事、デザイン趣向などを私たちに語りかけてくれます。地名が創り出すもうひとつの風景をお楽しみ下さい。ぜひ何処にあるか探して見てはいかがでしょうか。



②スポーツの秋の由来は、きっかけとなった1964年開催の東京五輪

秋は元々体を動かすのに最適と言われていました。そして1964年に開催された東京オリンピックを機に『スポーツの秋』と言われるようになりました。そこから56年ぶりの2020年に、また東京でオリンピックが開催されます。これを機会に激しい運動でなくても軽い運動を始めてみてはいかがでしょうか。パンフレットのマップを片手に『御所沼コース』を巡り、歴史を知り、地形を楽しみ、交流の拠点を楽しみながら公園を散歩というのも秋の楽しみ方のひとつでは無いでしょうか。ゆっくり歩いて約30分のコースです。ここちいい位の適度な運動でおすすめですよ。

③秋の人気のどんぐりをいくつか探せるかな？

秋の人気者のどんぐりが、あちらこちらで落ちているのを見つけることが出来ます。日本に自生するどんぐりは22種類もあるそうです。多さにびっくりします。みなさんの知っているどんぐりはいくつくらいありますか？

公園を歩きながらたまには足元に目を向けて可愛らしいどんぐり探しも楽しいですよ。過ごしやすい気候の秋からのプレゼント、どんぐりを使った工作や食べられるどんぐりもあります。どんぐりを見分けて家族と楽しい秋を満喫してみてもいいかなですか？



●朝晩は肌寒くなり、秋本番です。てくてく情報、次号もお楽しみに！

●秋が深まってきました。樹木の色の変化を感じ、季節の移り変わりを楽しんでください。

①～⑤園内では木々が色づき、紅葉を楽しむことができます。お好きなポイントを探してみは？



紅葉とは、落葉広葉樹が落葉の前に葉の色が変わる現象で、赤色に変わる『紅葉（こうよう）』、黄色に変わる『黄葉（おうよう）』、褐色に変わる『褐葉（かつよう）』と分けられています。おすすめビューポイントの一つ、天神橋から御所沼に映る紅葉を眺めてみてはいかがでしょうか。絵を描くのもよし、写真におさめるのもよし、絶景が広がっています。



⑥ 11月7日は、二十四節気の一つ、立冬です。
雪華園では恒例の冬支度『松のこも巻』が見られます。

雪華園では江戸時代から行われてきたとされる害虫駆除法『こも巻き』を行いました。この作業が始まると冬に向けての準備がはじまったと実感します。



季節の移り変わりは早い物です。12月に入ると本格的な冬に向けて『雪吊り』を行います。秋から冬への模様替えの様子も楽しんで見て下さい。

利用者アンケートを実施しています。



公園では11月30日まで、利用者アンケートを実施しています。どんな小さなことでもかまいません。この機会にみなさんの思っていることをお聞かせ下さい。アンケートは園内、休憩室、管理棟などに設置しています。

⑦⑧ 中山台東側の赤花ソバと筑波見の丘付近のイイギリ

⑦はタデ科のソバ属『赤花ソバ』が見事に咲いてくれました。ソバの花というと白を連想しますが、珍しい赤もあるんですよ。ヒマラヤから持ち帰った『高嶺ルビー』という品種だそうです。見渡す限りのルビー色の絨毯といったところですね。

⑧はヤナギ科イイギリ属の落葉高木『イイギリ』です。昔この大きな葉っぱにおにぎりを包んだことから、和名『飯桐』の名がついたと言われています。葉っぱはハート型で可愛らしく、赤い果実がたわわになり、これからの時期にぴったりのクリスマスカラーが目を楽しませてくれます。



●朝晩は寒さが進み、晩秋を迎えます。てくてく情報、次号もお楽しみに！

○紅葉も終わり、多くの植物が葉を落とし、本格的な冬の到来です。

① 民家園では、冬でもきれいな花を咲かせて、みなさんの目を楽しませてくれています。

① 民家園 (サザンカ)



冬はどこか寂しい印象になりがちですね。冬の時期は寒い冬を超えようと植物たちが花を散らし、葉っぱを落とすようになります。そんな中でも元気に花を咲かせ、冬でも枯れずにいる木や花があります。『さざんか、さざんか、咲いた道・・・』のフレーズでお馴染みの童謡たき火で歌われている『山茶花 (サザンカ)』です。花の少ない冬の季節の彩としても魅力的な冬の花の代名詞で、江戸時代から生け垣や庭の木として好まれてきたそうです。ツバキ科ツバキ属の常緑広葉樹で、花言葉は『困難に立ち向かう』だそうですよ。



② 積雪地の冬の風物詩が雪華園にお目見えです。

雪華園では、積雪地の街や住宅地の冬の風物詩『冬囲い (雪吊り)』を見ることが出来ます。冬囲いは雪圧から樹木を保護するための囲いです。冬囲いにも種類があり、縄巻き、竹囲い、こも巻き (※先月紹介)、屋根囲いなど色々な方法があるようです。昔から寒い季節に霜や雪氷から植物を守る工夫がされて



松の雪吊り

来ました。こも巻きと雪吊り、ともに冬支度へ変身した松の様子も楽しんで見て下さい。



③ 公園の人気者：中山台の『富士見塚』

中山台は、園内でも子供達に大変人気の高い場所です。その理由は遊具で遊べたり、夏は水遊び、何といっても『富士見塚での芝滑り』冬は外で遊ぶのはと思っているのもったいない。段ボールをもって公園に来て見てはいかがですか。満足してもらえる楽しさですよ！！



④ 万葉集にも登場する秋の七草のひとつです。

秋のお散歩のときには、園路の両側を黄金色に見事に飾ってくれた瀬橋 (かわうそばし) 付近の『ススキ』たち、これからの時期は、本格的な冬の到来に向けて、右の写真⇒のように刈り取り作業を行います。地表にでているススキは、冬に枯れてしまいます。風や雪にさらされてしまいますが、地中では来春に向けて着々と準備が進んでいます。きっと春には、また青々とした若葉を見ることが出来ますよ。他の植物もそうですが、季節による移り変わりを観察してみるのも、楽しいですよ！！



ススキ

○今年も残りわずかとなりました。てくてく情報、次号もお楽しみに！